

記して心より御礼申し上げる。

参考文献

浅井元朗 2015. ヒレタゴボウ.「植調雑草大鑑」.全農教, 67.
伊藤操子 1993. II -6. 雑草の伝搬.「雑草学総論」.養賢堂, 95-103.
神田幸英・浅野泰彦 2003. 三重県における水田雑草の残草実態. 雑草研究 48(別), 248-249.
大川茂範・北川誉紘・青木大輔・内野彰 2013. 宮城県の水稲作圃場における ALS 阻害剤交差抵抗性イヌホタルイの確認. 雑

草研究 58(別), 94.
森田弘彦・浅井元朗 2014. チョウジタデ.「原色雑草診断・防除辞典」.農文協, 解説水 3-水 4.
日本植物防疫協会 2002. 農業種類別県別出荷数量表.「農業要覧 2002」, 212-392.
日本植物防疫協会 2012. 農業種類別県別出荷数量表.「農業要覧 2012」, 218-412.
日本植物防疫協会 2022. 農業種類別県別出荷数量表.「農業要覧 2022」, 224-425.
日本植物防疫協会 適正使用と適切な水管理. <https://japr.or.jp/tekisei/>, (参照 2024-08-20).
農林水産省. 平成 14 年度・平成 24 年度・

令和 4 年度作物統計調査.
大川茂範 2014. 宮城県における除草剤抵抗性水田雑草の現状と課題. 農業および園芸 90(1), 203-210.
大西順平・田畑茂樹・中山幸則 2015. 三重県における水田雑草発生の特徴と変化. 日本作物学会第 240 回講演会.
吉沢長人・小澤啓男・則武晃二・竹下孝史・鴨居道明 1998. 水稲除草剤の投げ込み方式(ジャンボ剤)による省力化施用技術の開発. 雑草研究 43(3), 181-185.

田畑の草種

目処萩・筮萩(メドハギ)

安倍晴明は少しばかり慌てていた。

というのも、3 日前に宮中で卜占を行ったとき持って行った著(今でいう筮竹のこと。古くはノコギリソウの茎が使われていた。)を、村上帝がよく見せてほしいというので置いてきたのだった。ところが事もあろうに、その日の夜、内裏に火がでてしまった。すぐさま式神に取りにいかせようかと思案したのだがすでに遅く、火は著を置いてあった帝の御寝所まで回ってしまっていた。

晴明の使っていた著は、陰陽師の師である賀茂忠行から譲られた著で、唐から持ち帰ったものと言われていた。しかも藤原安子中宮から内裏が新しくなるまでの間どこに難を避ければよいかを占ってほしいと問われ、その卜占をするにも著が必要であった。しかし、早速に著が準備できるわけでもなく、陰陽寮の誰かに借りるわけにもいかず、思案に暮れていたところであった。その時、師の賀茂忠行の言葉を思い出した。もし著がすぐさま手に入らないときには萩の茎がその代わりを担ってくれるであろうから、萩を探せばよいということ。

晴明は式神を使って萩を探させた。時節は秋。萩も花を付けているだろうからすぐに見つかるだろうと思っていた。しかし式神が持って帰ってくる萩は、花が咲いているのはいいとしても盛んに枝分かれしていたり、先がしな垂れていたり、地面を這っていたりして著には使えないような萩がほとんどであった。そんな中で、ある式神が枝分かれして束になった萩を持ってきた。葉や花は密についていて枝分かれしてはいるが茎はしっかりと木のようにまっすぐであった。聞けば川の土手に生えていたという。すぐに晴明はすべての式神をそこに向かわせ、できるだけ多くの萩の茎を採ってこさせた。

採ってきた萩の茎を 1 本ずつに分け、その茎から葉や花、枝分かれしている茎をしごきとらせた。そうしてその茎の中からできるだけ太さが一定のものを選り、葉や花のつけねの凹凸をやすりで丁寧に削り取らせた。それらを一定の長さに揃え 50 本をまとめると賀茂忠行が言っていた著として卜占に使う

須藤 健一

には十分であると思われた。この時に安倍晴明が使った萩がメドハギであった。

メドハギはマメ科ハギ属の多年草。全国の日当たりの良い草地や道端、堤防や河川敷などでみられる。背丈は 60cm から 1m ほど。茎は硬く木質化するが冬には完全に枯死し、翌年には新たな茎が立ち上がってくる。茎の基部ではほとんど枝分かれせず、主枝や途中から出た枝はほぼ上へと伸び、竹箒を逆さまに立てかけたような姿になり、遠くからでも区別しやすい。葉は 3 出複葉、小葉は幅が狭くくさび形～倒披針形で先が丸い。頂小葉が側小葉よりやや大きい。茎の周りに房のように付く。8 月～10 月頃に葉腋に淡黄色の花を数個ずつ付ける。旗弁に紅紫色の斑点が出る。閉鎖花もよくできる。

萩は万葉の時代から秋の七草の一つとして愛でられてきた。その万葉人が愛でた萩はヤマハギであったと考えられているが、メドハギはヤマハギと比べると丈も低く花色もヤマハギの紅紫色と比べて淡黄色と目立たず、あまり見向きされなかったようである。しかし陰陽師たちにとっては卜占時の著として重宝されていたのであろう。

